社会福祉法人 大阪水上隣保館
里親支援機関　**おひさま**

〒573-0013 大阪府枚方市星丘 1-20-8
TEL & FAX：072-380-3455
https://ohisama-satooya.jp

[社会福祉法人 大阪水上隣保館]
・遙学園(児童養護施設)　・児童心理治療施設ひびき　・大阪水上隣保館乳児院　・翼(児童養護施設)　・乳児院 小規模グループケア「たんぽぽ」
・山崎保育園　・認定子ども園 藤の里保育園　・山崎幼稚園(学校法人山崎学園)　・「ファミリーポートひらかた」「広場さぶり・ファミリーサポートセンター」　・つどいの広場「ファミリーポートたかつき」「ぱんだのいえ」　・在宅養育支援センター みゆき園　・弥栄の郷(特別養護老人ホーム・ホームヘルプサービス事業等)　・大阪水上隣保館付属診療所 さくらクリニック　・大阪保育福祉専門学校

2020.03初版

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

はぐくみホーム〔養育里親〕って どうしたらなれるの？

HAGUKUMI HOME START BOOK!

OHISAMA
PEACE AND HAPPINESS

日本には、今、虐待や貧困、病気、死別などによって、
親と暮らせない子どもたちが、

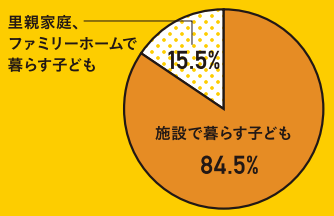
約45,000人います。

この子どもたちは、
集団で育てられる「施設」、または
家庭に近い環境、「里親」のもとで
暮らすことになります。

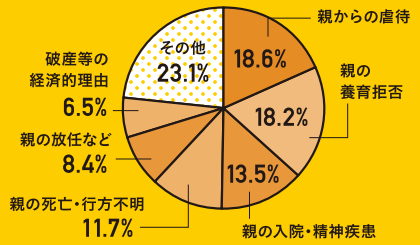
大阪府内では、施設で生活を送っている子どもたちが
約1,200人います。施設では職員さんからたくさんの
愛情を受けているけれど、「家庭で過ごしたい！」と願っている
子どもたちもたくさんいます。

そんな子どもたちの気持ちに応えてくださる「里親家庭」は、
とても大切な存在です。が、数が全く足りていないのが現状です。

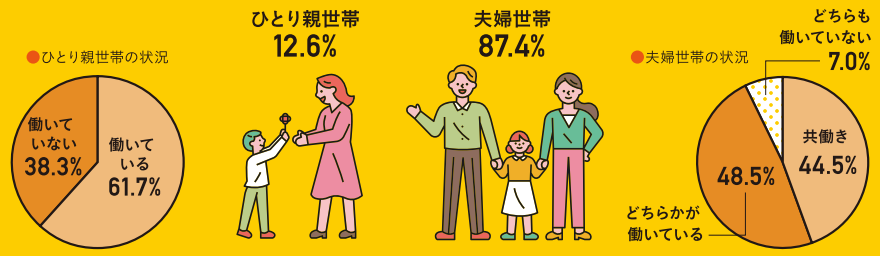
保護された子どもたちの行き先



里親に委託された理由



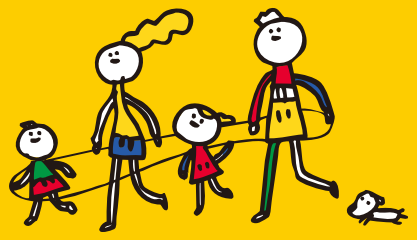
里親家庭の状況



※2019年1月 厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課「社会的養育の推進に向けて」掲載データより

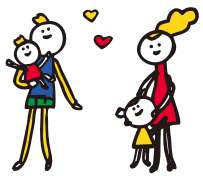
大阪府では、養子縁組をせずに、一定期間を
養育してくださるご家庭を「はぐくみホーム」と呼び、
子どもたちを受け入れてくださる
「地域の里親家庭」を増やすことを積極的に進めています。
一時期、親と離れることになっても子どもたちが
同じ地域や近所の家庭で暮らせたら、
転校もせずに友だちと離れることもありません。
少しでも同じ環境のまま暮らすことができるのです。
この「はぐくみホーム」は、養子縁組里親と異なり、
戸籍上の手続きをして法的な親子関係になる
るというのではなく、子どもが必要な期間だけ預かる、
という養育里親にあたります。
親権は実親のままですが、
子どもの養育に必要な経費などが支給されます。
（里親手当 月額86,000円＋一般生活費等）

好きなだけ甘えられたり、
かまってくれたり、
そんなたくさんの愛情を注いでくれる、
家庭の味を子どもたちに、
あなたのご家庭で体験させてください。



本冊子では、「はぐくみホーム」として、子どもたちに
温かい手をさしのべてくださったご家庭事例をご紹介しています。5Pへ

はぐくみホームはどなたでも申し込むことができます。特別な資格もいりません。



1 相談

里親制度に興味を持っていただけたら、まずはご相談ください。
どんな制度なのか、どのようなお子さんをお願いするのか、里親になるために必要な手続きなど、詳しいご説明をいたします。

2 面接・家庭訪問

登録していただく方に、詳しい面接をさせていただきます。今までの生活歴や現在の生活状況等について個別面接や家庭訪問を行い、同居されているご家族を含めてお話をお聞きすることもあります。

3 研修

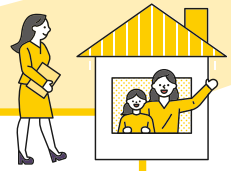
登録する為に必ず受けて頂く研修があります。3コース全てを受けていただいてから次のステップに進んでいただけます。

※原則土日開催となっていますが、毎月開催されているものではありませんので、お仕事等を調整いただくことがあります。

4 実習

研修を全て受けていただいてから、実際に施設で生活しているお子さんと関わっていただくため、施設で実習をしていただきます。

5 家庭訪問・面接



研修と実習を受けていただいてからのお気持ちの変化や、登録に向けての最終確認のために再度家庭訪問や面接をもうけさせていただきます。

6 大阪府里親登録審議会

毎月1回開催されている、大阪府里親登録審議会に、おひさまや子ども家庭センターの担当者が作成した書類をもとに、推薦させていただきます。

7 登録

審議会の審査に無事に通りましたら、正式に里親家庭として登録していただきます！

しっかり時間をかけて準備するので安心です。

子どもたちに手を差し伸べてくださるご家庭を
おひさまが、ご相談から登録、その後の支援まで丁寧にサポートします。
もちろん、話を聞いてみたい・・・だけでもどうぞお気軽にお問い合わせ・ご来所ください。

しっかり準備して、里親登録が完了してから、子どもの委託があるのを待ちましょう。

子どもを受け入れてから本格的な支援も始まります。

おひさまでは日々の家庭訪問や電話相談をはじめ、いつでも身近に寄り添い、里親さんが悩みや慣れない労力を抱えこまずに暮らせるように手厚くフォローしていきます。9Pへ

Ohisama Story 1

「はぐくみホーム」として、温かい手をさしのべてくださったご家庭事例①

野口さんのストーリー

家族構成　子育て経験なし　40歳代 夫婦　➡ Welcome　小学生 男児

週末里親でゆっくりスタートされた、お子様のいなかったご夫婦

野口さんのご夫妻は、実子がいないこともあり、里親家庭に興味を持たれました。「子どもと一緒に遊びたい」というような軽い気持ちで里親はできないかな、と最初は断念しました。しかし数年経ってから「やっぱり何か自分に出来ることがあるかもしれない」と週末里親★からスタート。当時小学校1年生だった男の子との数年の交流を経て「この子のために出来ることがあるのなら、やってみよう」とはぐくみホームとして登録されました。

週末里親として関わっていたときと違い、ずっと一緒に生活していくことは簡単なことではありませんでしたが「日々の小さな子どもの成長を感じられることが嬉しい」とずっとその子を養育してくださっています。特に嬉しかったエピソードは「上手く褒めることができないという悩みがあるんですけれど、子どもに『ありがとう』と伝えることも褒めることだと知って、たくさん褒めるようにしていました。そうしたらその子が、学校の作文で『僕のすることに1つずつありがとうと言ってくれる。それが嬉しい。』と書いてくれて。あぁちゃんと受け取ってくれているんだな、と本当に嬉しかったです」と話してくれました。

今ではその子も高校生になり、もう1人小学生の里子を迎えてくれている野口さん。まだまだ賑やかな日々が続きます。

★週末里親　週末や夏休みなど休日だけ過ごす里親制度

※お名前は仮名です

Ohisama Story 2

「はぐくみホーム」として、温かい手をさしのべてくださったご家庭事例②

大野さんのストーリー

家族構成　子育て経験 3人　50歳代 夫婦　➡ Welcome　中学生

ご近所の母子家庭を何とかしたい一心で、里親になられたご夫婦

大野さんは実子3名を育てられました。地元の人とも繋がりが多く、偶然近所に住んでいるシングル家庭の親御さんが病気で倒れられたと知ります。そのご家庭の子どもはそのとき中学生。どこにも頼るところがないため、子どもは遠くの施設に入るかもしれず、そうなると中学校を転校しないといけません。気になっていた矢先にその現状を知り「自分が出来ることがあるのなら」と、その子を受け入れるためにはぐくみホームに登録されました。中学生の子を受け入れるのは大変だろうと周囲は心配されていましたが、大野さん夫妻は大らかに受け止めつつ、必要なことはしっかり伝えながら、その子が進学し、一人暮らしをするまで養育されました。初めは知っている子なら…と里親家庭を始められましたが「こんな子達が他にいるなら、何かできることをしよう」と里親家庭を継続。その後も中高生の子達を受け入れてくださっています。

「自立した後のことまで気になるし、出来れば実家のように見てあげたいと思うから、大きい子の方がやりがいがあるかな。もし頼れるところがないなら、うちを実家みたいに思って里帰りしてくれたりすると嬉しいなと思う」と、自立後の子ども達のことも気にかけてくださっています。

※お名前は仮名です

Ohisama Story 3

「はぐくみホーム」として、温かい手をさしのべてくださったご家庭事例③

山本さんのストーリー

家族構成　子育て中 4人（当時 3歳・5歳・7歳・10歳）｜40歳代 夫婦｜

➡ Welcome　1歳（以降も新生児〜乳幼児 複数の子どもを養育）

実子といっしょに、みんなで楽しく育っていければ！そんな思いを実践されたご夫婦

山本さん夫妻は、ご自身でも実子を4名育てられていたこともあり、以前から地域の子育て支援をされていました。そこで様々なご家庭があることを知り「もっと協力できることがあるならしてみたい」とはぐくみホーム登録をされました。「実子もまだ小さいので、わいわいみんなで育っていければ良いな」と、新生児も含め、乳幼児を中心に受け入れてくださっています。

山本さんの家庭に来る子ども達は様々で、その子達の保護者の方のことも一緒に受け止めてくれています。生まれた家庭に帰る子を支援したり、養子縁組のご縁ができた子を新たな家庭に送り出したりするなど、子ども達とのお別れも経験されています。送り出すときは、大切なことだとわかりつつも涙があふれます。「本当に淋しく思うし、元気かなぁとずっと思うこともたくさんあるけど、帰ったあとの元気な姿を見せてもらえることがあって、それはとても嬉しい。」と語ってくださる山本さん。子どもを送り出すことは、嬉しい気持ちと淋しい気持ち両方あるけれど、必要とする子ども達の為にこれからも里親家庭を続けて行きたいと明るく話してくださっています。

※お名前は仮名です

子どもたちの家庭事情に合わせて求められるはぐくみホームもさまざまです。

OHISAMA VOICES

数週間〜2ヶ月の委託

母子家庭での母親　入院。

母子家庭の姉弟。姉（小学生）弟（2歳）母、数日前から体調が悪く病院を受診すると盲腸で手術が必要と言われた。入院期間は1週間の予定。退院して1週間後に外来受診の予定。体調が戻るまでの期間預かってほしい。

OHISAMA VOICES

1年〜の養育委託

精神疾患のため不適切な養育。

両親ともに精神疾患を抱えており、子どもに愛情はあるが育児がうまくいかず、市の子育て支援を利用しながら子育てをしている。今後、病気の治療に専念するために預かってほしい。体調が良いときには面会もしたいと思っている。

OHISAMA VOICES

半年〜数年の養育委託

離婚による経済的理由。

両親が離婚。離婚理由としては、父の借金やDV。親権は母が持つことになったが、子どもを育てていけるだけのお金がない。親族からの支援も難しい。母の仕事が見つかり、経済的に安定するまで預かってほしい。母の仕事が休みの日には、面会や外泊もしたい。

OHISAMA VOICES

長期の養育委託

夫婦ともに障がいがあり、育児困難。

夫婦ともに知的障害がある。育児がうまくいかないため、子どもは乳児院で生活。子どもに会える月1回の面会に物足りなさを感じているが、まだ家で一緒に生活することは難しい状態。夫婦は養護施設ではなく家のような家庭的な環境を希望している。子どもの生活する場所が変わっても面会を続けていきたいと思っている。

OHISAMA VOICES

1ヶ月〜数年の養育委託

若年すぎる夫婦の育児困難。

若年での出産。学業もあり、新生児を自分たちで育てていくことは難しい。赤ちゃんのためにも新しい両親に育ててもらった方が幸せではないかと考え、特別養子縁組に出すことにした。養子里親がすぐには見つからないので、見つかるまで預かってほしい。

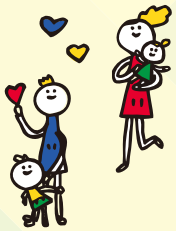
OHISAMA VOICES

自立するまでの数年の養育委託

将来に向けて家庭の経験を高校生に。

現在児童養護施設で生活している高校生。自立に向けて家庭での生活を経験したほうが良い。本人もそう願っている。

地域に根ざす「おひさま」が、地域と連携した子育てをサポートします。



地域の各、教育・福祉・医療機関が連携し、
チームとして里親家庭を支援していく体制をとっています。
おひさまでは、里親家庭だけで子育てするのではなく、
地域で子どもを育てていくことを実践しています。

里親さんが、日々の生活に専念できるように おひさまは、地域による安心の「チーム養育」を目指しています。

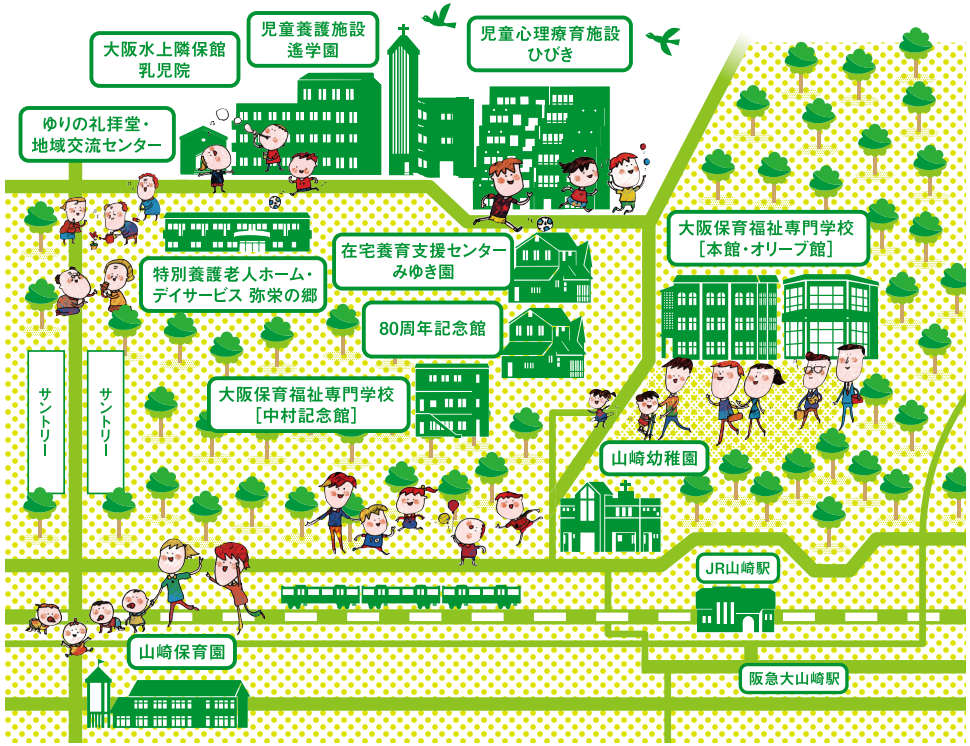
里親家庭も地域の養育チームの一員。地域みんなで子どもを育てていくという考え方です。子どもに最善を尽くすことをチームで共有し考えます。おひさまは、いつもそばで温かく里親家庭を見守り、一緒に悩んだり考えたりできる身近な関係です。些細なことでも相談できたり、困った時にはすぐに手を差し伸べてくれる、心強いチーム体制が整っています。

- ◆保育園や学校などでの様子について話し合いをする機会や場をご要望に応じてつくります。
- ◆気軽に相談できるサポート体制や学びの機会を多く作っています。
- ◆何かあった時に助けてと言える、温かい心で見守る地域づくりを進めています。
- ◆里親家庭が地域や学校で暮らしやすいよう、里親家庭をみんながあたりまえの家庭として知ってもらえるよう、啓蒙活動を行なっています。

おひさまが所属する大阪水上隣保館は、90年前から子どもの福祉に取り組んできた社会福祉法人です。

おひさまは、いざという時に頼りになる経験豊富な子育てのプロと連携しています。

大阪水上隣保館 施設のご案内



ファミリーポートひらかた

枚方エリアでも
子育て支援を
行っています

広場さぷり・
ファミリーサポートセンター

大阪水上隣保館について

1931年、まだ児童福祉という概念がなかった戦前に、牧師の中村 遙は、貧困や戦災で苦しむ子どもたちを救済するために「こどもたちの家」を築きました。「援助を求める人いるならば、ためらわずに手を差し伸べる」という遙先生の想いで立ち上がった水上隣保館は、その後も多くの子どもに寄り添い共に生きるための施設をつくり運営しています。現在もその精神を引き継いだ多くの職員が日夜、子どもたちや保護者、家庭のために寄り添い力を尽くしています。